



## 平成 28 年熊本地震被災地への派遣者報告について

平成 28 年熊本地震被災地への支援のため、本市から派遣された職員が、それぞれの任務を終え、帰豊しました。

市長への現地活動報告を以下のとおり行います。

### ■ 日 時

平成 28 年 4 月 27 日 (水) 午前 11 時 30 分から

### ■ 場 所

豊橋市役所東館 4 階 政策会議室

### ■ 派遣チーム

〔愛知県・中核市共同による保健師派遣〕 …別紙 1

- ・健康増進課 加藤寿子（保健師）
- ・健康政策課 藤田進（事務職員）

熊本県の要請に基づき、愛知県と中核市が共同で職員派遣する第 1 班として、4 月 19 日（火）から 4 月 25 日（月）まで、熊本県宇城保健所管内で被災者の健康相談や避難所の衛生対策等の活動を行ってきました。

〔愛知県東三河災害支援隊派遣〕 …別紙 2

- ・防災危機管理課 加藤進一、安井祥哲
- ・環境部業務課 福井勝美、山口尚志

先に現地入りした保健師などからの現場ニーズを受けて、東三河 8 市町村の枠組みで 4 月 21 日（木）に出発し、熊本県宇土市へウェットタオルや手指消毒薬等の衛生生活用品を届け、4 月 23 日（土）に帰豊しました。

【問い合わせ先】

防災危機管理課 課長補佐 河合孝始 ☎51-3125

## 平成 28 年熊本地震における保健師派遣の報告について

熊本県の要請に基づき、愛知県と中核市（豊橋市・豊田市・岡崎市）が共同で職員派遣する第1班として、4月19日（火）から4月25日（月）まで、熊本県宇城保健所管内宇土市で、被災者の健康相談や避難所の衛生対策等の活動を行ってきました。詳細は、以下のとおりです。

1 派遣期間 平成 28 年 4 月 19 日（火）～4 月 25 日（月）

2 派遣者 健康増進課 加藤寿子 主査（保健師）  
健康政策課 藤田 進 専門員（事務職員）

### 3 活動内容

月 日	活 動 内 容
4月19日 (火)	8:45 出発式（豊橋市役所） 移動（豊橋駅→新幹線→博多駅・レンタカー） 19:30 宿泊先到着（植木）
4月20日 (水)	6:15 宿泊先出発 10:00 宇城保健所到着・活動開始 ○状況の確認・保健所・関係支援団体等とのミーティング ○主な活動先：宇土東小学校避難所巡回 18:15 宇土市保健センター発 22:20 宿泊先到着（植木）
4月21日 (木)	5:30 宿泊先出発 6:50 宇土市災害対策本部（市民体育館）到着・活動開始 ○大雨による避難勧告発令に伴い本部から帰還命令あり、一時待機 ○主な活動先：住吉漁港避難所・宇土小学校避難所・鶴城中学校避難所巡回 19:00 宇土市災害対策本部（市民体育館）出発 20:15 宿泊先到着（上天草市）
4月22日 (金)	7:00 宿泊先出発 8:30 宇土市災害対策本部（市民体育館）到着活動開始 ○避難所巡回のほか、宇土市保健センターや宇城保健所の事務作業補助 ○主な活動先：花園コミュニティセンター避難所・花園小学校避難所・宇土小学校避難所・宇土東小学校避難所巡回 18:30 宇土市災害対策本部（市民体育館）出発 19:40 宿泊先到着（上天草市）

4月23日 (土)	<p>7:00 宿泊先出発</p> <p>8:30 宇土市災害対策本部（市民体育館）到着活動開始 ○主な活動先：鶴城中学校避難所・宇土小学校避難所・市民広場避難所・保健センター避難所巡回</p> <p>18:30 宇土市災害対策本部（市民体育館）出発</p> <p>19:30 宿泊先到着（上天草市）</p>
4月24日 (日)	<p>9:00 第2班先遣隊への引き継ぎ</p> <p>11:00 宿泊先出発</p> <p>13:00 宇土市災害対策本部（市民体育館）到着活動開始 ○主な活動先：宇土小学校避難所・上松山コミュニティセンター避難所巡回</p> <p>15:30 宇土市災害対策本部（市民体育館）出発</p> <p>16:30 宿泊先到着（上天草市）</p> <p>17:00 第2班への引き継ぎ</p> <p>19:00 業務終了</p>
4月25日 (月)	<p>8:30 宿泊先出発 移動（三角駅—熊本駅—新幹線—豊橋駅）</p> <p>17:20 豊橋着</p>

#### 4 所感

今回派遣された宇土市に関しては、多数報道された市役所本庁舎の被害が印象的であるが、それ以外は、道路の通行止め9か所、古い民家の屋根瓦や外壁の破損などはあったものの、イメージよりは、被害が少なく感じた。ライフラインについても、到着時には断水はあったものの、電気、ガス、携帯電話、インターネットは使用できる状況であり、到着の翌々日の21日には、水道も使用できるように復旧した。(一部で断水はあった。)

ライフラインの復旧は進んでいるが、被害の大きいのは、住民の精神面と思われる。本震が深夜だったため、昼間は家の片付けや仕事に出かけることができるが、夜間は、家では怖くて眠れず、車中泊や避難所での宿泊をする人が多くなっている。また、住民だけでなく、市役所の職員やスタッフの疲労蓄積が心配される状況である。職員本人も被災者であるにもかかわらず、発災当初から長時間・長期間にわたる対応に迫られ、体力面だけでなく、精神面での疲労が大きくなっている。このような有事の際には、地域住民の協力が不可欠であると感じた。

被災地の状況や必要とされる支援も、刻一刻と変わっている。たとえば、到着当初は、断水などにより衛生管理がままならない避難所が多かったが、衛生指導を続ける中で、水道が復旧し、衛生環境は少しづつ改善していった。こうした状況の下、我々の保健師活動も、当初は避難所を巡回しての健康相談や衛生指導が主であったが、宇土市保健センターの機能回復を支援するための支援業務にシフトしていった。被災状況にもよるが、市民の活力を取り戻すためにも、一日も早く「日常」を取り戻そうとする行動が重要と感じた。

## ○本部でのミーティング（衛生班ミーティング、保健師ミーティング）



## ○避難所巡回（健康相談、衛生対策）



## ○被害状況（民家、道路の陥没）



## 熊本地震に伴う物資搬送について

### 1 概要

現地に派遣された職員より要請のあった、必要物資（生活用品等）を熊本県宇土市へ搬送したもの。

### 2 行程

4月21日（木） 9：05 豊橋市役所出発

4月22日（金） 7：30 宇土市民体育館到着  
搬送物資の積み下ろし後、現地の要請により  
避難所への物資搬送等に従事

4月22日（金） 11：50 宇土市民体育館出発

4月23日（土） 9：05 豊橋市役所到着

### 3 現地活動詳細

宇土市民体育館へ到着後、積載していった物資を積み下ろし、その後現地の要請により、届けられる物資の積み下ろし及び仕分けに従事。その後本市トラックにより避難所へ物資の搬送を行った。

### 4 所感等

今回派遣された宇土市は建物被害については思ったより少なく感じた。現地の方は、深夜に発生した本震が強く脳裏に焼き付いており、夜になると余震を恐れ避難所や車中で寝泊まりをされている状況であり、精神的な被害が大きく感じた。

現地の状況について宇土市職員に話を伺ったところ、「物資はしっかりと届いている。現時点困っている事は無いが、あえて挙げるなら物資が市民ひとり一人に届いているか不安である。また、復興に向けては地元の店舗が営業を再開することが重要であり、市からの物資配給の終息と各店舗の営業再開の調整が課題」とのことである。

宇土市民体育館では、地元の高校生がボランティアとして精力的に活動している姿が強く印象に残りました。

## ○宇土市民体育館の状況



## ○現地活動状況（支援物資積み下ろし）



## ○現地活動状況（避難所への物資搬送）

